

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 1月 18日

【評価実施概要】

事業所番号	0170502348		
法人名	有限会社 レイロ		
事業所名	グループホーム 涼風		
所在地	札幌市豊平区中の島2条7丁目4番5号 (電話) 011-837-8353		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年1月16日	評価確定日	平成20年1月22日

【情報提供票より】 (19年12月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年11月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤13人, 非常勤5人, 常勤換算14人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1, 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円 (生活保護者35,000円)	その他の経費(月額)	光熱水費: 24,000円 在宅酸素機械電気代 1,500円
敷 金	有 (円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要 (1 2月15日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	4 名	要介護2	9 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 81.8 歳	最低 73 歳	最高 91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田代内科・呼吸器科クリニック	聖マリア歯科クリニック
---------	----------------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム涼風は、近くに公園があり静かな環境の住宅地に位置している。建物は、ホーム開設時に代表者、管理者夫婦の思いを入れた「一般家庭とできるだけ同じ造りに」という思いの基に建てられた木造作りになっている。代表者は以前、在宅の相談員をしていたが在宅介護の限界を感じ、妻である管理者はホームヘルパーの仕事で介護の限界に歯がゆさを感じ、二人の思いのもと家庭的な温もりのある介護を24時間提供したいという思いで涼風を開設している。運営理念も、殺伐とした現代において穏やかに暮らしてほしいという思いから、独自の理念をつくり、常に利用者を中心に日々のケアに取り組んでいる。職員も年齢幅が広く、穏やかで心のこもった対応を日々心がけている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	開設してから今回が2回目の外部評価である。前回課題となった玄関の施錠については、建物の構造上や環境面から難しいという事で現在も改善は進んでいないが、各居室には表札がつけられ、ホームの理念にそったゆっくりと穏やかな対応や言葉がけは全職員の心がけて改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は全職員で取り組んで検討する時間は取られず、職員は内容の把握もできていない状態である。各ユニット主任が取り組み、管理者と共にまとめているので、今後は全職員で自己評価を行い職員の意見を取り入れていくよう前向きに検討している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議が設置されメンバー構成はできているが、開設以来参加者の都合が合わず、まだ1度も開催されていない。今後は、今回の評価を議題の一つに取り上げサービス向上をめざして定期的な運営推進会議が開催できるように検討していく。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時、家族との会話の時間を取り、事業所に対する要望や悩みを聞き、出された意見は会議で話し合い全職員の理解のもと対応している。家族への話は、内容により担当職員や管理者等、随時対応職員を変えて個別に対応している。苦情箱等は設置していないが、外部の苦情相談窓口がある事を入居時に家族にも伝えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、運動会に参加したり御神輿を見に行ったりしているが、町内会の活動があまり活発でなく行事も少ないので、近くの社会保険病院のお祭りに行ったりと、まわりの地域へ積極的に出かけて、地域の人々と交流を増やして行けるように努力している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初よりの、ゆったりと穏やかな雰囲気の中で安心し、又安全に生活を送ることが出来るようにという事業所独自の理念を作りあげている。	○	開設当初よりの理念は、全職員で日々の対応に生かされているが、地域密着型サービスの意義を加えた理念がまだ出来ていないので、地域との関係性を謳った事業所独自の理念を作りあげてを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回から2ヶ月に1回の職員会議時に理念の説明をしたり、日々の利用者との関わりの中でも常に理念に掲げたケアをするように、職員全員で心がけて実践している。	○	理念を心がけて対応しているが、まだ満足できる対応ができていない時もあるという事なので、全職員が理念を共有し、益々の理念の実践を期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会して地域の運動会に参加したり、お祭りの御神輿を見に行ったりしている。近くの社会保険病院のお祭りを見に行ったりして、地域の人々と挨拶を交わしている。	○	町内会の行事があまり多くないので、今後は、周りの地域の方にも積極的に出かけ、地元の人々との交流が少しずつ増えていく事を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回は2回目の外部評価であるが、前回の外部評価の結果は職員会議で議題として取り上げ、改善できる点は前向きに検討して、実践できるようにしている。	○	今回は自己評価を全職員で行う事ができなかったため、今後は全職員で取り組み、外部評価と共に反省や改善に向けて、全職員で検討し実践していくことを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年末に、第1回目の運営推進会議を開催する予定であったが、参加者のスケジュールが合わずまだ開催されていない。	○	今回の評価結果等も運営推進会議の議題の一つに取り上げ、サービス向上をめざして定期的な運営推進会議が今後開催されることを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者の方と常に連絡を取り合っており、事業所の実情や家族からの依頼などの相談も行っている。区で開催している在宅ケア連絡会に参加し、地区からの情報を伝えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者の様子という手紙を担当職員が書いて家族に送付し状況を知らせている。金銭出納については、領収書をコピーし、原本を家族の元に郵送して報告している。家族の訪問時には、話の内容によって担当職員や管理者というように対応する人を変えている。	○	個人情報保護法を考えて、各自の情報伝達は手紙だけにしているが、事業所の全体の様子を家族に知ってもらうためにも、ホーム便りを定期的に発行していく事を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、家族との会話の時間を取り、事業所に対する要望や悩みを聞き、意見が出された時は会議で話し合っており全職員理解のもと対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員が入る時は自己紹介から始め、利用者からホームの事を教えてもらっている。職員の退職時は、職員間で十分な引き継ぎを行い、スムーズに利用者に対応できるようにしている。利用者に対しては、状況や利用者の状態によって退職時の声かけをするようにしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等は、現在は個人的に参加している状況であるが、研修に参加した職員は資料や研修内容を会議等で報告している。インターネットで参考資料等を取り寄せ、資料を基に会議等で話し合っって勉強会の機会を作っている。	○	事業所としては、人数的になかなか研修に参加させることは難しいが、今後は、シフトの作成時にフリーになる職員を組み込み、研修に参加できるようにしていきたいという事なので、更なるサービス向上にむけて、外部研修を積極的に取り入れていく事を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	在宅ケア連絡会に参加し、他のグループホームの情報を得てサービス向上に役立っている。管理者の知り合いの同業者と交流を持ったり、他のグループホームの見学を通して日々のケアに役立っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前より、代表者や管理者、職員が面会機会を設け、ホームの見学を勧めて安心感をもってもらっている。できる限り見学してもらい、本人に納得してもらってから入居の話をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々、利用者とゆっくり話をする時間を取り、人生の歩み方や年中行事、神仏関係等多方面にわたり教えてもらって仕事に生かしている。家事も積極的に教えてもらい、職員は利用者を支えられているという感謝の気持ちで毎日仕事に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中で、利用者の希望や思いを理解し、把握するように努めている。希望や要望は、利用者全員に平等に対応できるかどうか考慮しながら対応し、職員が判断できない時は管理者や代表者が対応するという流れができています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の職員による利用者の観察、および毎月のモニタリングシートに基づき、カンファレンスで討議し、主任が計画原案を作成する。これを家族に送付して意見ないし承認を求め、最終的に承認を得たところで介護計画としており、関係者の意見やアイデアがよく反映される仕組みになっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行って利用者の状況を把握しながら、3ヶ月に1回、計画の見直しを行っている。利用者の状況に大きな変化があれば随時、計画の見直しを行っている。見直し計画の作成手順は上記と同様である。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への通院は家族にお願いしているが、急変の場合など、臨機応変に通院支援を行っている。また、地域住民が来訪した際に、高齢者の問題全般について相談に応じるなど、地域支援にも一役買っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始時に協力病院の説明を行い、月2回の往診および必要時の受診を行っているが、利用者ごとに希望するかかりつけ医があればその受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	元気で暮らしているうちは特に話し合うことはないが、健康状態が悪化したときは、その状況に応じて本人、家族、医師と相談しながら、最終的に入院、帰宅、ホームでの看取りなど、可能な対応について話し合っている。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	家族のような、親しみを失わない対話に心がけつつも、個人的な話は個室でする、トイレ誘導やパットの確認などは回りに気づかれないような声かけをする、などの気遣いを徹底している。個人情報や書類の管理にも十分な配慮がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的にはホームのタイムスケジュールに基づいて、食事、レクリエーション、体操などが行われている。特に食事については服薬の関係で大きく変更できないが、できるだけ本人の希望にそって、無理強いはしないようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材納入とメニューは専門業者に委託しているが、利用者の希望によって適宜変更している。食材の下ごしらえ、配膳、下膳、食器洗いなど、利用者も参加して食事を楽しいものになっている。職員は他の用事や休憩などの関係で、一部のみ食事に参加している。	○	食事の支度や後片付けに参加するのは一部の利用者なので、これをもっと広げるよう、また、職員はできるだけ一緒に席に着いてともに食事を楽しむよう、検討を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日を除く毎日、必要があれば日曜日でも、午後に入浴の態勢をとっている。各自の入浴日はおおよそ決まっているが、無理強いせず、なおかつ週2回の入浴は確保できるように、声かけなどに工夫と努力をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来る人が出来る範囲で掃除や食事関連の仕事、縫い物などを手伝っており、それを楽しんでいる。また、クラフトアート、造花、手芸なども行われ、ホーム内に飾られている。ボランティアの工芸指導も受け入れている。	○	仕事への参加や楽しみごとをしているのはまだ一部の決まった人に限られているので、もっと参加の枠を広たい、とのことなので、その努力を期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏の間は毎日近くの公園を散歩する。各人の身体機能に合わせて、車椅子の人も、数人ずつに分けて出かけている。さらに車での買い物や、春の季節には山菜取りにも出かける。	○	冬季間の外出する機会は、車での外出などに限られて少なくなってしまうので、安全で暖かいところを探して、外出の機会を増やしたい、とのことなので、その努力を期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	地域の環境柄、不審者の侵入の危険があり、現にその事例もあるので、防犯上玄関および各フロアの出入り口は常に施錠している。建物の構造上、職員が玄関とフロアの出入り口を常時監視するのは困難である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルを作成し、全職員に配布して心得は徹底させているが、実地訓練はしていない。また、近隣への協力依頼、消防署との連絡もできていない。	○	消防署と連携しての避難訓練実施と、運営推進会議を通じて、および個別対応での近隣住民への、万一の場合の協力依頼をしておくことを期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては、食材納入業者の栄養士による管理が出来ている。摂食状況、および水分摂取は詳細にチェックされ、バイタル表に記録されて、必要な分が確保されるように管理されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物全体が運営者の強いこだわりで、ドアをはじめ、エレベーターにまで木を豊富に使った、暖かい雰囲気になっている。必ずしも広いとはいえない面積であるが、それだけに落ち着いて安心できる空間となっている。随所に飾られている工芸品、展示物なども楽しい、華やいだ雰囲気を感じさせる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	床は木調のフローリングであるが、窓には障子が入り、天井や照明は和風で、落ち着いた雰囲気になっている。部屋の調度や飾りは本人と家族の意向次第で人様々であるが、仏壇や写真など、なじみのものも持ち込まれている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。